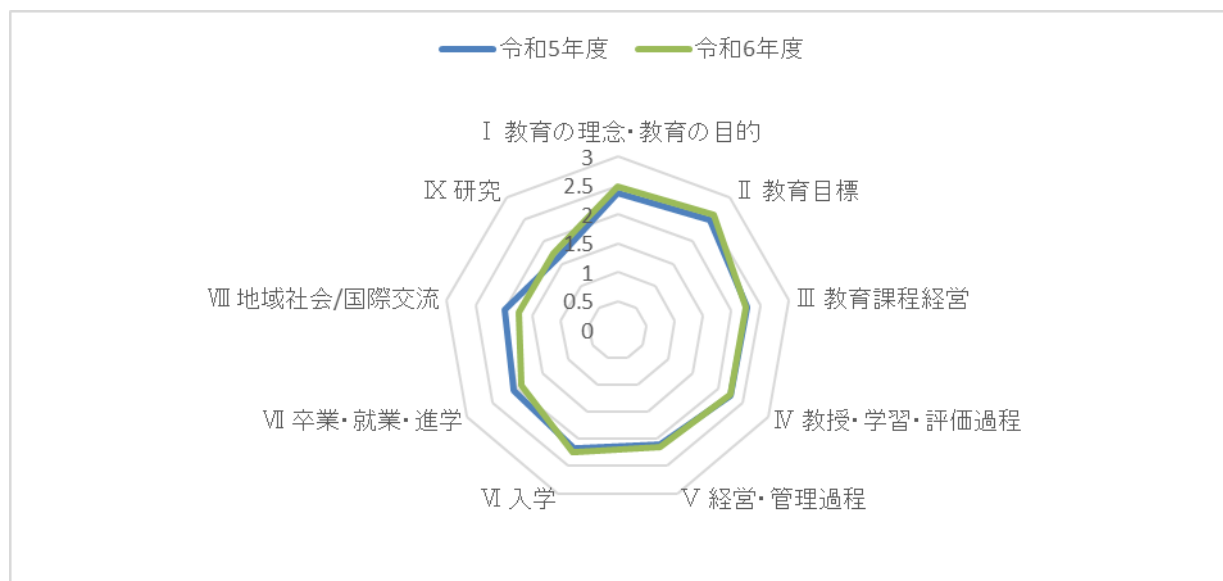


令和 6 年度 釧路孝仁会看護専門学校
自己点検および学校関係者評価

本校は、2017 年より厚生労働省の指針である「看護師養成所の教育活動に関する自己評価指針作成検討会」報告書に基づき、教職員を対象とした調査を実施している。2022 年度からは、学校関係者評価を取り入れ、自己点検・自己評価を教育の質の維持・向上や学校運営に役立てている。

今年度より、本校の教育の理念を基本に厚生労働省の自己評価指針を参考にしながら、自己点検・自己評価指針を見直した。評価は 9 カテゴリー・93 項目とし、「よくあてはまる：3 点」、「大体あてはまる：2 点」、「あてはまらない：1 点」の 3 段階で点数化し、3 点の 75%である 2.25 以上を肯定的評価、2.25 未満を否定的評価とし、前年度と比較した。その結果、「Ⅳ教授・学習・評価過程」、「Ⅴ経営・管理過程」、「Ⅶ卒業・就業・進学」、「Ⅷ地域社会/国際交流」、「Ⅸ研究」の 5 カテゴリーが否定的評価となった。

	カテゴリー	令和5年度	令和6年度
I	教育の理念・教育の目的	2.37	2.48
II	教育目標	2.48	2.6
III	教育課程経営	2.28	2.26
IV	教授・学習・評価過程	2.26	2.24
V	経営・管理過程	2.11	2.16
VI	入学	2.18	2.25
VII	卒業・就業・進学	2.07	1.91
VIII	地域社会/国際交流	1.99	1.74
IX	研究	1.63	1.73



＜自己点検結果の分析＞

I 教育の理念・教育の目的

肯定的評価であった。令和4年度のカリキュラム改正から3年が経ち、多くの教職員が本校の教育の理念・教育の目的を意識し、教育実践に反映していると考え。その結果、講義・実習等を通じ、教育の理念や目的を指針とした学生の学習につながっていると判断する。

II 教育目標

肯定的評価であった。教育の理念・教育の目的と教育目標は一貫性があり、看護教育活動の具体的な指針となっていると評価する。

III 教育過程経営

肯定的評価であったが、前回より下降した。特に＜教員の教育・研究活動の充実＞はすべての項目が否定的評価となり、本校は教員の人員不足による影響が大きいことがわかる。看護教員のなり手不足は全国的にも指摘されているところであるが、人員充足に向け、講習会に参加しやすい環境作り（人・金・物）が必須であり、近々に取り組むべき課題である。

IV 教授・学習・評価過程

否定的評価であった。低い項目は、IV-4、IV-8の科目間や教員間での情報共有や協力体制、IV-9、IV-10、IV-11の評価に関して項目であった。看護学は人の一生を発達段階に分けた領域別によって教授される。このことにより教員の専門性は高くなるが、学生の横断的な学びにつながらない。授業内容の情報共有や指導の協力体制が整うことで、発達段階別ではなく、人生を通しての健康の維持回復等を学生に教授できると考える。また、学生の学びの特徴に合わせた教育活動評価を取り入れることも、教員個々の指導スキルに影響し、学生の「わかる」につながると考えるため、積極的に取り組んでいく。

V 経営・管理過程

否定的評価であったが、前年より上昇している。＜養成所の運営計画と将来像＞、＜自己点検・自己評価体制＞に対する評価が低く、教職員の年間計画や自己評価に対する理解の低さがうかがえる。今後は、学校運営計画や自己評価の意義について共有するとともに、教職員の意見を引き出すような機会を設ける必要がある。また、＜財政基盤＞においてはすべての項目が低く、学校運営に係る費用や年間予算など、教職員が情報共有できていない状況が続いている。学校運営会議において毎月の収支決算や年間の経常損益など情報を定期的に共有し、予算立てにおいて教職員の意見を拾える機会作りが必要である。

VI 入学

少子化や看護師を希望する学生数の減少などで今年度も入学試験出願者数は定員に満たない状況にある。しかし、入学生が前年の2倍となったことは、進学ガイダンスや高校訪問、ポスター掲示等の広報活動の成果であると推測する。

肯定的評価となった理由として、入学選抜試験ごとに選抜の考え方や入学生の状況など分析した結果を教職員間で確認検討したことが影響したと考える。今後も本校のアドミッションポリシーを大切に学生確保に努めていく。

VII 卒業

否定的評価であり、前年よりも下降した。卒業時の到達目標について、年度ごとに調査しているが、分析評価に至っていない。また、卒業時の就業・進学状況は把握しているが、その後の動向については調査していない。

今後は、卒業生の動向を学校の特徴のひとつとして情報提供できるよう努めていく

VIII 地域社会/国際交流

否定的評価であり、前年よりも下降した。今年度はふれあい広場やボランティア活動などに積極的に参加し、地域に貢献することができた。

しかし、外国人留学生の受け入れ体制が整備されていないことや国際看護を学ぶ科目（看護学概論Ⅱ）が少ないことから、学生が留学や海外での就職を希望するような学習環境が提供できていない状況にある。

日本人学生の確保が困難であることから、外国人留学生の受け入れ体制を整えるとともに、国際的な看護活動に触れられるような機会を設ける必要がある

IX 研究

否定的評価である。

看護教育活動において、研究を行うメリットよりもデメリット（時間的・経済的余裕がない）を感じていることが考えられる。研究を行えるよう環境を整え、教員が研究の意義を持てるよう組織的に取り組む必要がある。

＜自己点検結果報告＞

I 教育の理念・教育の目的

	評 価 内 容	結 果
I - 1	教育の理念・教育の目的は、自養成所の教育上の特徴を示しており、かつ法との整合性がある	2.4
I - 2	教育の理念・教育の目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示しており、実際に学生の学習の指針となっている	2.3
I - 3	教育の理念・教育の目的は、養成する看護師の質を法相するための、教育内容・教育方法・教育環境を述べている	2.6
I - 4	教育の理念・教育の目的は、看護・看護学教育、学生観について明示しており、実際に教員の教育活動の指針となっている	2.5
I - 5	教育の理念・教育の目的は、養成する看護師が卒業時点において持つべき資質を明示しており、その資質は社会の対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている	2.6

II 教育目標

II - 1	教育目標は、教育の理念・教育の目的と一貫性がある	2.8
II - 2	教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	2.5
II - 3	教育目標は、卒業時の到達目標を示しており、具体的に実現可能なものとなっている	2.6
II - 4	教育目標は、実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から設定される	2.6
II - 5	卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている	2.5

III 教育課程経営

＜教育課程編成とその構成＞

III-1	教職員は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している	2.2
III-2	教職員は教育の理念・教育の目的達成に向けて一貫した活動を行っている	2.2
III-3	看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	2.2
III-4	学修の到達について明確な考え方を根拠をもって教育課程を編成している	2.2
III-5	学生の成長について明確な考え方を根拠をもって教育課程を編成している	2.2

＜科目、単元構成＞

III-6	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している	2.2
III-7	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している	2.2
III-8	科目と単元の構成の考え方は教育の理念・教育の目的、教育目標と整合性がある	2.3
III-9	構成した科目は看護師を養成するのに妥当である	2.5
III-10	構成した科目は看護師の養成所の特徴をあらわしている	2.4

<単位履修・認定>

Ⅲ-11	単位の履修方法とその制約について教員・学生の双方がわかるように明示している	2.7
Ⅲ-12	単位の履修の方法は学生が単位を履修することを支援するものとなっている	2.7
Ⅲ-13	単位履修制の考え方を踏まえつつ、学修の質を維持し修得できるよう科目が配列されている	2.4
Ⅲ-14	単位認定の基準・方法は看護師に必要な学修を認めるものとして妥当である	2.5
Ⅲ-15	単位認定のための評価基準と方法を公表している	2.4
Ⅲ-16	単位認定の評価は公平性が保たれている	2.5
Ⅲ-17	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている	2
Ⅲ-18	教育課程を評価する体系を整えている	2.1
Ⅲ-19	評価結果の活用における倫理規定を明確にしている	2

<教員の教育・研究活動の充実>

Ⅲ-20	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している	2.2
Ⅲ-21	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている	2
Ⅲ-22	教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている	2.2
Ⅲ-23	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている	2.1

<学生の看護実践体験の保障>

Ⅲ-24	臨地実習施設は、養成所の個別の教育の理念・教育の目的、教育目標を理解している	2.1
Ⅲ-25	臨地実習施設は、学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている	2.3
Ⅲ-26	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者と教員の役割を明確にしている	1.9
Ⅲ-27	臨地実習指導と教員の協働体制を整えている	2.1
Ⅲ-28	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している	2.4
Ⅲ-29	対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている	2.2
Ⅲ-30	臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している	2.5
Ⅲ-31	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている	2.3

Ⅳ 教授・学習・評価過程

<教授・評価過程>

Ⅳ-1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている	2.4
Ⅳ-2	授業内容は、看護学の教育内容として妥当性がある	2.4
Ⅳ-3	授業内容は科目目標との整合性をもっている	2.4
Ⅳ-4	授業内容と他の授業内容との重複や整合性、発展性が明確になっている	2.1
Ⅳ-5	授業形態（講義、演習、実践、実習）は、授業内容に応じて選択している	2.5
Ⅳ-6	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画に明示し、実践している	2.3
Ⅳ-7	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している	2.3
Ⅳ-8	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている	2.1
Ⅳ-9	授業の評価を計画的に実施し、結果に基づいて改善している	2.1
Ⅳ-10	学生及び教育活動を多面的に評価し達成するために、多様な評価の方法を取り入れている	2
Ⅳ-11	教育目標の達成状況を多面的に評価している	2

<学習への動機づけ>

Ⅳ-12	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある	2.3
Ⅳ-13	シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている	2.3

Ⅴ 経営・管理過程

<学校運営>

Ⅴ-1	学校設置者及び管理者は設置目的・教育の理念・教育の目的・教育目標・教育課程経営・教育評価及び管理運営について考え方を明示している	2.4
Ⅴ-2	教職員は設置者と管理者の考え方を理解している	2

<組織体制>

Ⅴ-3	学校の組織体制は、教育の理念・教育の目的を達成するための権限や役割機能・意思決定システムが明確になっている	2.2
Ⅴ-4	意思決定システムは、教職員の意思を反映できるように整えられている	2.4
Ⅴ-5	意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている	2.3
Ⅴ-6	教職員の任用の考え方は、教育の理念・教育の目的達成と整合性がある	2.1
Ⅴ-7	教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育の理念・教育の目的達成との整合性がある	2.2

<財政基盤>

V-8	財政基盤を確保することについての考え方が明確であり、学習・教育の質の維持・向上につながっている	1.9
V-9	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している	1.9
V-10	教職員それぞれの観点による財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようにになっている	1.8

<施設設備の整備>

V-11	学習・教育環境の整備について、管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している	2.1
V-12	医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に行っている	2.2
V-13	学生及び教職員が学生生活を円滑に送り、職務を円滑に遂行できるように福利厚生施設設備（生活活動・交流・課外活動等）を整備している	2.2

<学生生活の支援>

V-14	学生が入学後に学修を継続できるような支援体制（学習・生活・健康・授業料・災害等）を整えている	2.4
V-15	支援体制は、実際に学生に活用され、学習の継続を助けている	2.3

<養成所に関する情報提供>

V-16	教育・学習活動に関する情報提供を保護者等に行い、保護者等から協力・支援を得ることにつながっている	2.2
V-17	看護師を養成する機関としての存在を十分アピールし、その内容な社会的に責任説明を果たすものになっている	2.4

<養成所の運営計画と将来像>

V-18	学校は明確な将来構想のもとに運営され、長期計画・短期計画、年間計画を立案し、その実施・評価は将来構想との整合性をもっている	2.1
------	---	-----

<自己点検・自己評価体制>

V-19	自己点検・自己評価の意味と目的を理解し、実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている	2
V-20	自己点検・自己評価体制を整え、運用している	2.1
V-21	自己点検・自己評価は、学校の教育の理念・教育の目的・教育目標の維持・改善につながり、教育課程運営・授業実践のフィードバックにつながっている	2.1

VI 入学

VI-1	教育の理念・教育の目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている	2.4
VI-2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している	2.1

VII 卒業・就業・進学

VII-1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に卒業時の到達状況を分析している	2.2
VII-2	卒業生の就業・進学状況を分析している	2.2
VII-3	卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている	1.7
VII-4	卒業生の就業先との情報交換や調査の実施ができる体制を整えている	1.8
VII-5	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している	1.9
VII-6	卒業生の活動状況の分析方法を、教育の理念・教育の目的・教育目標、授業の展開に活用している	1.7

VIII 地域社会／国際交流

<地域社会>

VIII-1	社会との連携に向けて、学校が設置されている地域のニーズを把握し、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている	2.2
VIII-2	学校の教育活動について、学校が設置されている地域のニーズを把握する手段、学校から地域社会へ情報を発信する手段をもっている	2
VIII-3	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を学校の学習・教育活動に取り入れている	2.2

<国際交流>

VIII-4	国際的な視野を広げるための授業科目を設定している	1.9
VIII-5	国際的な視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている	1.5
VIII-6	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている	1.2
VIII-7	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている	1.2

IX 研究

IX-1	教員の研究活動を保障（時間的・財政的・環境的）している	1.9
IX-2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている	1.8
IX-3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所にある	1.5

<学校関係者評価報告>

自己点検・自己評価の結果から、以下の意見を得た。

I .教育の理念・教育の目的	カリキュラム改正後、地道な努力で教育の理念や教育の目的が達成できている。
II .教育目標	前年よりも評価が上がり、すべてのカテゴリーの中で一番評価が良い。教員それぞれが同じ目標を持ち、これからも学生指導に励んで欲しい。
III .教育課程経営	・教員の教育・研究活動の充実においては教員不足の解消が皆無と言える。 ・教育課程の見直しを実施し、学生のニーズや地域医療現場の要請に応じたカリキュラムの構築が必要である。 ・学生や卒業生へのアンケートを通じて、教育内容や運営方法に関するフィードバックをしていく。
IV .教授・学習・評価過程	・教員の専門性を高くするとともに、学生の横断的な学びになるような方法も考えて実施評価してもらいたい。 ・教員の指導力向上を目的とした研修の実施を提案する。 ・学生個々の学習進捗状況を把握し、個別指導計画を策定する。
V .経営・管理過程	・少子化、看護師を志望する生徒の減少、大学志向、看護学校の増加と外部要因が多々あり、看護学校を経営するにはとても大変な時代である。特に本校は釧路市内で唯一授業料無償化（就学支援新制度）を行なえない学校のため、学生獲得はとても厳しい状況と感じる。その中でも今年度はオープンキャンパスの回数を増やしたり、地域の人にも看護学校の特色を紹介する学校見学会を開催したことは良い取り組みだと思う。定期的に開催し、本校の知名度を上げる活動を継続してほしい。 ・教員自身が経営に関しての意見が昨年よりは高くなった。積極的に発言できる場を継続して設けていく必要がある。 ・教職員全員で自己点検・自己評価結果を共有し、改善計画に一体となって取り組む必要がある。定期的なミーティングを行い、進捗状況と課題点を確認すること。 ・看護師の国家試験合格は 38 人中 35 人、新卒合格率と比べると劣るが、全体の合格率から見ると上回っている状況である。これからは学生数が少なくなるので、学生一人ひとりに更にきめ細やかな指導を期待したい。
VI .入学	・人口減少が続いている中でも、広報活動の成果は出ている。 ・定員 40 名に対して、定員割れが続いている。以下、対応策を提案する。 1.入試広報活動の強化 ・地域高校での説明会や体験入学イベントの増加を図る。 ・SNS やウェブサイトを活用した広報活動を強化し、学校の魅力を発信する。 2.奨学金制度の拡充 ・経済的支援が必要な学生に対する奨学金制度を見直し、進学意欲を高める 3.魅力的なカリキュラムの設計 ・地域医療に特化したユニークなプログラムや実践的な研修機会を提供する。 ・卒後のキャリアパスが明確になるようなガイダンスを実施する。

VII.卒業・就業・進学	・卒業生の活動状況を把握することは、人が集まる魅力ある学校づくりの検討に不可欠である。卒業生の特性が学校の強みとなるため、積極的な状況把握が必要である。 ・卒業生は孝仁会の病院で勤務する割合が多いが、3年間で奨学金を返済した後は、他医療機関に転職する方が多いと感じる。当法人を退職した後の就職先を把握して、関係が続けられるよう努力願いたい。そうすることで、アルムナイ採用につながると考える。
VIII.地域社会/国際交流	国際交流の категория が特に低い状況である。少子化及び人口減を考えると外国人留学生の受け入れを整備する必要がある。
IX.研究	まわりとの接点を持つ場としても教育の質を上げるためにも、研究に取り組むことは非常に重要である。時間的・経済的な問題を明確にし、看護教育の一環として研究に取り組める環境づくりをしてほしい。

<学校関係者評価委員>

社会医療法人孝仁会 釧路孝仁会リハビリテーション病院 看護部長

社会医療法人孝仁会 法人本部 経営企画部 課長

一般社団法人孝仁会 課長